

報告

沖縄県立看護大学の成人保健看護概論の授業展開

吉川千恵子¹⁾ 伊藤幸子¹⁾ 前原なおみ¹⁾ 石川りみ子¹⁾
比嘉かおり¹⁾ ミヤジマ厚子¹⁾ 比嘉恵枝¹⁾ 金城利香¹⁾

成人保健看護概論は、成人を対象とする看護を原理的に理解するための科目であり、成人保健看護の基盤を築くものである。

この報告は、成人保健看護概論の授業展開についてまとめたものである。主な内容は、1) 授業展開の基本姿勢、2) 授業内容、3) レポート課題からの学生の学びからなる。

授業展開の基本姿勢として、成人保健看護担当教員は全員授業へ参加し、授業内容を共有することとした。

単元レベルの授業項目は、成人期の特徴と健康、成人保健看護における看護の特徴、成人の健康づくりと健康管理、健康障害の要因と健康管理、保健看護活動における指導・相談・援助、事業所の健康管理、事業所見学の7項目である。

レポートは、授業の進行に従って課題を提示し、学生の学習意欲、関心、学びのレベルを評価し、授業へフィードバックすることとした。4つの課題レポートから学生の学びをみると、学生間に差はあるが、意識や行動に変化があり、新しい課題を発見し、新しい学びをしていた。また、文献の量と読解力がレポートの質に影響していた。事業所見学は全ての学生が関心を持ち、成人保健看護の対象理解と看護の役割機能を理解するのに学習効果があった。

キーワード：成人保健看護概論 成人期 授業内容 レポート 大学生

はじめに

人間は身体・精神・社会的な統合体として生涯発達し続ける存在であるといわれている。教育学者であるハヴィガースト(Havighurst,R.J.)は、「各発達段階で発達課題を果たすことは教育の目標であり、同時に人が幸福な人生を送るための条件である」¹⁾と述べている。

成人期は青年期、壮年期、向老期と人生の中で最も長い期間にあり、成長・成熟・老化の過程をたどる中で、様々な変化を経験するがライフサイクルの中で最も充実した時期であると同時に、これらの変化に伴って心身のストレスや危機状態に陥りやすく、また、事故や異常な適応行動や生活習慣と関係のある疾病にもかかりやすい時期である。

成人保健看護は、このような成人期にある人々の身体・精神・社会的な特徴を理解し、対象の成長・発達を促し、各健康レベルに援助し、死を迎える人々に対しては、その人格や尊厳が保たれ、死が受容されるように援助をするための知識・技能・態度を学ぶ専門科目である。

科目は、成人保健看護の基盤となる「成人保健看護概論」、慢性期にある患者の看護を学ぶ「成人保健看護方法」、急性期患者の看護を学ぶ「成人保健看護方法」、

終末期患者の看護を学ぶ「成人保健看護方法」から構成されている。

成人保健看護概論の授業で心掛けてきたことは、成人保健看護の入口である本科目を学生にどう伝えていくか、また、成人保健看護の全ての科目に共通する科目として、保健看護の視点から授業内容を検討し授業展開を行った。必ずしも満足する授業内容ではなかったが、次へのステップとして成人保健看護概論の授業展開を行ったので報告する。

成人保健看護概論の授業展開

A 成人保健看護概論授業への基本姿勢

成人保健看護概論担当の教員が4月に赴任し、4月18日より第一回の講義が始まった。

授業計画作成と同時に、科目担当教員による授業案²⁾を作成し授業を行った。また、授業には成人保健看護担当全教員が参加することとし、授業内容、授業場面に共有しながら学生を理解し、講義期間中、学生から質問があればいつでも質問を受けた教員が答えることができるよう配慮した。さらに、学生の授業に対する理解を知る一つの指標として、課題に対するレポートを提出させ、授業評価を行い次の授業へフィードバックすることとした。

1) 沖縄県立看護大学

B 成人保健看護概論の授業展開

単元レベルの授業項目は、成人期の特徴と健康、成人保健看護における看護の特徴、成人の健康づくりと健康管理、健康障害の要因と健康管理、保健看護活動における指導・相談・援助、事業所の健康管理、事業所見学の7項目から構成される。

以下、授業内容について概説するが詳しい内容と教育方法・留意点は表1の通りである。

1 成人期の特徴と健康

人間の一生は、様々な変化の過程を経験し特徴的な節目がある。その中で成人期は、人生の中で最も充実した時期である。

ここでは、成人期を青年期（10代後半から30代前後）、壮年期（30代前後から60代前後）、向老期（60代前後から65歳前後）に分けて考えることとしたが、実際には年齢で区分することは難しく、個人差があることも考慮した。

授業内容 1) 成人期のとらえ方^{1)、3-7)}では、ライフサイクルからみた成人期、発達課題でみた成人期、法や制度の適用からみた成人期について学ばせ、人の一生の中で成人期を理解することとした。2) 成人各期の発達と健康^{1)、3-7)}では、青年期、壮年期、向老期の身体的特徴、精神的特徴、社会的特徴を学ばせ、特に青年期にある学生達が、自分自身をよく知る機会となるようレポート課題を提示した。その成果は後述の通りである。3) 成人保健看護の対象⁴⁻⁸⁾では、成人各期の身体的・精神的・社会的特徴や発達課題を理解して、その人と家族のより健康的な生活に向けて援助を考える。また、各期の健康問題を理解して健康の保持増進、疾病の予防への援助活動を考える。そのために活用できる法や制度についても理解しておくことが必要であることを学ばせる。4) 成人保健看護の目的^{5)、6)}は、(1)成人期を通して、各個人がもっている身体的、精神的、社会的能力を最大限に発揮して充実した社会生活を営むことが出来るよう支援する (2)成人期の人々の健康(問題)を総合的に理解し、個人、家族、集団に対して健康の保持増進ができるよう支援する (3)健やかな老年期を迎える準備をしていくことができるように、個人、家族、集団を対象として支援することである。

成人保健看護の科目が、この目的に向けて構築されていることを認識させ、成人保健看護概論は各科目の土台であることを理解させる。

2 成人保健看護における看護の特徴

健康と疾病について、基本的な考え方や各健康段階に

対応した保健看護の援助について理解させる。また、成人保健看護が行われている場と特徴、看護の機能と役割についても概説する。さらに、成人各期の生活背景と健康、看護の要点についても学ばせる。

授業内容 1) 疾病予防の考え方^{4)、9)、10)}と各健康レベルへの援助ではクラークとレヴェル(Clark, E.C., Leavelle, H.R. 1950)⁹⁾が提唱した疾病予防の考え方を基軸に、第一次予防、第二次予防、第三次予防について具体的に学ばせ、健康増進からリハビリテーションまでの一貫した保健医療及び看護に中心的役割を果たし健康モデルになっていることを理解させる。2) 成人保健看護の行われる場と看護の役割^{7)、11)}について、医療機関、地域、学校、職場、社会福祉施設を例に、対象と場の特性、看護の役割について学ばせる。3) 成人各期の生活背景と健康、看護の要点^{4-7)、11)}については、前述の特性と併せて、日常生活における生活リズム、個体の要因、生活習慣、生活環境が健康と関連があることを理解させ、看護の要点を考える。

3 成人の健康づくりと健康管理

ここでは、保健医療福祉の動向や成人保健医療福祉関係の法規を理解させ、疾病予防の観点から健康づくり、健康管理の方法と実際について学ばせる。

授業内容 1) 保健医療福祉の動向^{9)、11-14)}では、国民衛生の動向や福祉の動向、沖縄県の福祉保健行政の概要、関係法規について概説する。2) 健康づくり事業^{11)、12)}では生活習慣病予防の観点から、国の健康づくり対策への取り組みの経過と健康日本21計画の現状を理解させ、健康づくり事業の方法と実際を、個人、家族、集団、地域レベルの視点で学ばせる。そして、自己の健康づくりを考える機会となるようレポート課題を提示した。その内容は後述の通りである。3) 老人保健事業^{9)、12)、14)、15)}死亡率の改善やねたきり予防の観点から成人期からの健康を守る施策として6つの保健事業を市町村が主体となり推進していることを理解させる。4) 健康管理^{11)、14)}については、その目的、方法、内容について公的保健事業として行われる健康管理と自己の責任で行う健康管理について理解させる。

4 健康障害の要因と健康管理

ここでは、健康に影響を及ぼす要因と生活習慣病について理解させると共に、看護の問題を解く基礎理論を理解させ、看護実践方法としての看護過程について学ばせる。

授業内容 1) 健康に影響を及ぼす要因^{6)、7)、11)、16)}については、年齢と性、信念・価値観、生物学的・物理的・

表1 授業内容

教授項目	教授内容	教育方法・留意点等
1 成人期の特徴と健康	1) 成人期のとらえ方 (1) ライフサイクルから見た成人期 (2) 発達課題でみた成人期 (3) 法や制度の適用からみた成人期	・看護学原論や心理学等で学んだ知識を統合する ・成人期の発達性をふまえた成人対象を理解する ・人の一生の中での成人期を理解する
	2) 成人各期の発達と健康 (1) 青年期 ・身体的特徴 ・精神的特徴 ・社会的特徴と健康 (2) 壮年期 ・身体的特徴 ・精神的特徴 ・社会的特徴と健康 (3) 向老期 ・身体的特徴 ・精神的特徴 ・社会的特徴と健康	・自分達の発達課題について考えるレポート ・両親を通して壮年期を考える
	3) 保健看護の対象と役割 (1) 成人期のライフサイクルと健康 (2) 家族における役割 (3) 社会における役割	・成人期の役割と健康を理解する
	4) 成人保健看護の目的 (1) 成人期を通して、各個人が持っている身体的、精神的、社会的能力を最大限に発揮して充実した社会生活を営むことが出来るよう支援する (2) 成人期の人々の健康問題を総合的に理解し、個人、家族、集団に対して、健康の保持増進ができるよう支援する (3) 健やかな老年期を迎える準備をしていくことが出来るように、個人、家族、集団を対象として支援する	・これから学ぶ方向性を示す
2 成人保健看護における看護の特徴	1) 疾病予防の考え方と各健康レベルへの援助 (1) 第一次予防：健康増進、特異的な予防対策 (2) 第二次予防：早期診断と早期治療、重症化防止 (3) 第三次予防：再発防止リハビリテーション	・公衆衛生や疫学等で学んでいる既修の知識を統合させる ・各健康レベルと疾病予防の考え方を理解する ・各健康レベルへの援助を理解する
	2) 成人保健看護の行われる場と成人保健看護の役割 (1) 医療機関における成人保健看護 (2) 地域における成人保健看護 (3) 学校における成人保健看護 (4) 職場における成人保健看護 (5) 社会福祉施設における成人保健看護	・成人保健看護が行われている場と看護の役割を理解する
	3) 成人各期の生活背景と健康、看護の要点 (1) 生活リズムと健康 (2) 個体的要因と健康 (3) 生活習慣と健康 (4) 生活環境と健康	・日常生活と健康について概説する
3 成人の健康づくりと健康管理	1) 保健、医療、福祉の動向 (1) 保健、医療、福祉の動向 (2) 成人保健関係の法規等	・成人保健の動向と成人保健関係の法規及び制度を理解する ・福祉の動向や医療の動向についても関連付けて概説する
	2) 健康づくり事業 (1) 健康づくり対策 ・第一次国民健康づくり対策(S53) ・第二次国民健康づくり対策(S63) ・健康日本21計画(H11年6月) (2) 個人、家族レベル (3) 集団、地域レベル (4) 実施体制 国、都道府県、市町村、国民	・健康づくり対策を理解する ・健康づくりの三要素である栄養・運動・休養を理解するレポート
	3) 老人保健事業	・6つの保健事業について理解する
	4) 健康管理 (1) 健康管理の目的 (2) 健康管理の方法 (3) 健康管理の内容	・健康(保健)管理について理解する

吉川他：沖縄県立看護大学の成人保健看護概論の授業展開

教授項目	教授内容	教育方法・留意点等
4 健康障害の要因と健康管理	1) 健康に影響を及ぼす要因 (1) 年齢と性 (2) 健康に対する信念・価値観 (3) 生物学的要因 (4) 物理・化学的要因 (5) 心理的要因 (6) 社会・文化的要因	・健康に影響を及ぼす要因を理解する
	2) 生活習慣病の要因と特性 (1) 生活習慣・生活様式(ライフスタイル) 要因 (2) 生活習慣病(成人病)の特性 (3) 生活習慣病の具体例 事例1：脳梗塞の健康管理 事例2：肥満の健康管理 事例3：慢性疲労症候群の健康管理	・生活習慣病を理解する ・生活習慣病で死亡した最近の事例 ・事例を通して生活習慣病を理解するレポート
	3) 成人保健看護に用いられる基礎理論 (1) ニード論 (2) ストレス理論 (3) 危機理論 (4) ケアリング (5) セルフケア (6) ソーシャルサポート	・看護問題を解く助けとなっている理論であり、さらに文献で学習を進める
	4) 看護実践方法としての看護過程	・看護実践方法としての看護過程を理解する
5 保健看護活動における指導・相談・援助	1) 対象の健康レベルと支援目標と支援方法 (1) 健康の保持増進の段階 (2) 疾病の予防措置が必要な段階 (3) 疾病治療の段階 (4) 社会復帰の段階	・健康レベルに応じた支援目的と方法を学ぶ
	2) 患者と家族への教育的支援援助 (1) 指導技術 指導技法、指導方法 (2) 教育(指導) 効果に影響する4つの要素 (3) 教育的支援、個別教育、集団教育、啓蒙教育	・成人保健看護における基本的な指導技術を学ぶ
6 事業所の健康管理	1) 健康管理の目的と健康管理チーム (1) 健康管理の目的 (2) 健康管理チーム	・国民衛生の動向より 労働衛生対策の動向 労働衛生の現状 については自己学習とする
	2) 看護職員の業務内容 (1) 救急処置 (2) 健康診断と事後措置 (3) 疾病予防と疾病管理 (4) 保健指導と健康教育 (5) 健康の保持増進 健康づくり (6) 衛生教育	・事業所における健康管理について理解する
	3) 健康診断の種類と事後措置、健康づくり (1) 法律に基づく健康診断 ・一般健康診断・特殊健康診断 (2) 労働福祉上の健康診断 (3) トータルヘルスプロモーション (T H P)	
7 事業所見学および報告会	1) 目的 成人保健看護概論の授業の一環として事業所を見学し、事業所(場)で働く人々の特性と健康問題や健康管理の特徴を理解するとともに、看護職(保健婦、看護婦)が果たしている役割と実際活動について学ぶ	・実際に事業所を見学し、働く場の特性、健康問題、健康管理の特徴を学ぶ
	2) 主な見学内容 (1) 事業所(場) 見学 (2) 事業所の概要および特性と健康問題 (3) 健康管理システム (4) 看護職(保健婦、看護婦)の役割と実際活動	
	3) 見学する事業所名 (1) (株)リゅうせき (2) 沖縄電力株式会社 (3) (株) 国場組 (4) (株) 海邦銀行 (5) (株) 琉球銀行 (6) NTT西日本沖縄支店 (7) (株) 日本トランスオーシャン航空 (8) 沖縄タイムス社 (9) 琉球新報社 (10) 沖縄県社会保険協会	・1事業所につき8名の学生とする ・教員と事業所の看護職員と事前調整を行う ・事業所見学要綱に基づき実施する
	4) 報告会の主な内容 (1) 事業所の概要および健康問題 (2) 健康管理システム (3) 看護職の役割と実際 (4) 見学を通して感じたこと	・各事業所ごとに報告書をまとめて見学したことを報告する ・各グループの報告を受けて相互の討議を行い理解を深める レポート

化学的要因、心理的・社会的・文化的要因などが相互に作用し健康に影響を及ぼすことを理解させる。2) 生活習慣病の要因と特性^{7)、11)、16)}については、前述の要因が生活習慣やライフスタイルと関連し、生活習慣病を発病させていくことを学ばせる。さらに事例^{17)、18)}を通して学ばせレポート課題を提示した。その内容は後述の通りである。3) 成人保健看護に用いられる基礎理論^{4)、7)}については、成人保健看護の実践に用いられる基礎理論として、ニード論、ストレス理論、危機理論、ケアリング、セルフケア、ソーシャルサポートについて概説し、文献学習でさらに理解させ、看護問題の解決に導くよう学ばせる。4) 看護実践方法としての看護過程^{3)、4)}については既習の知識を想起させ、成人保健看護の事例を用いて看護過程を学ばせる。

5 保健看護活動における指導・相談・援助

ここでは、成人期にある対象のライフサイクルの発達課題に配慮しながら対象の健康段階に応じた支援目標と支援方法について理解させ、指導・相談・援助技術について学ばせる。

授業内容 1) 対象の健康レベルに応じた支援目標、支援方法^{3)、4)、6)、7)、10)、19)}については、健康の保持増進の段階から社会復帰の段階まで、それぞれの段階に応じた支援目標、支援方法を学ばせる。2) 患者と家族への教育的援助^{3)、4)、6)、7)、10)、19)}については、基本的な指導・相談・援助技術を学ばせ、意図的な働きかけを通して、内在する力を引き出し、望ましい変化や価値を実現させる必要性を理解させる。

6 事業所の健康管理

成人期の人々は、何らかの生産活動を行い、職業生活を送り、社会の発展に貢献している世代である。どのような職種でも1日の1/3から1/2は勤労しており、労働条件や人間関係などによる健康障害も予測される。

ここでは、働く人々の健康管理がどのように行われているか理解させる。

授業内容 1) 健康管理の目的と健康管理チーム^{4)、9)、11)、12)}については、健康管理の目的、健康管理をするためにどんな職種があるか、また健康管理体制などについて理解させる。2) 看護職員の業務内容^{9)、11)、12)}については、保健婦や看護婦として、また職場の衛生管理者として行っている事業内容を学ばせる。3) 健康診断と事後措置、健康づくり^{4)、9)、11)、12)}については法的に義務づけられている健康診断の実施状況や事後措置について学ばせるとともに、職場の健康づくりについても学ばせる。

7 事業所見学及び報告会

成人保健看護概論の授業の一環として、保健婦又は看護婦が衛生管理者として勤務している県内10カ所の事業所を見学し、事業所の特性と健康問題、健康管理システム、看護職の実際活動を学び報告会を行った。学生が学んだことについてはレポート提出を求めた。学生の学びの成果は後述の通りである。

C レポート課題と学生の学び

レポート課題 : 青年期にある自分の 1) 身体的特徴 2) 精神の特徴 3) 社会経済的特徴について文献と比較しながらまとめよ

青年期にある学生自身が、青年期の特徴と自己を比較し振り返ることで、青年期の特徴だけでなく将来までを視野に入れ、この時期の過ごし方の大切さを学んでいる。

学生の学び

1) 身体的特徴

身体的成長はほぼ完了、感覚器の機能は良好だが視力は低下している 部活をしていた中学・高校時代が体力・運動能力は優れていたが、現在は運動不足のため衰えていると感じている 健康面での問題が減少し、身体的に安定していると考えている

2) 精神の特徴

大学生活、学業、恋愛、人間関係など様々な悩みを抱え、情緒不安定な時期であると感じている ストレスを感じているが解消法として友人や家族に相談している 一人で悩んでいる 人生の中で様々な課題や選択に迫られる時期で、大学受験は大きな課題であった 浪人時期は人生を真剣に考えることができた

3) 社会経済的特徴

経済的に余裕はないが親の援助があることで経済的に困っていない アルバイトを通して社会の仕組みや新たな人間関係を学んでいる 学校は友人をつくる環境にある 一人暮らしは、食生活・生活リズムが乱れやすい 生活リズムの崩れる要因は、アルバイト、夜遊び、勉強などである

4) その他

変わっていないつもりでもいろいろな面で成長していることを自覚でき、改めて自分自身のことが分かった 青年期をどのように過ごすかによって、将来にも影響するとても大切な時期で、人生設計の基盤になっていると思う 青年期は人生の中でも選択を迫られ、いろいろなことに影響を受け悩み考え、自己の考えを

確立していく時期だと思う

レポート課題：「自己の健康づくりについて心掛けて
いること、心掛けたいこと」生活習慣
病予防の観点から述べよ

講義を通して、現在の生活習慣を見直し改善への動機
づけになっている。また、規則正しい生活習慣が生活習
慣病の予防になることを理解している学生が多いが、実
行の難しさを感じている学生も多い。改めて親の有難さ
を感じた学生もいる。

学生の学び

1) 今心掛けていること

食生活では、一年次の基礎看護学で自己の食事調
査をしたことが役立っている 1日3食食べる、栄
養バランスを考え30品目の摂取を心掛ける、薄味にし
ている 間食をとらない、甘いものを控えている

運動では、継続できる運動、特に歩行することを
心掛けている 運動不足を感じている 運動する
時間がない

休養では、ストレスをためない、睡眠を十分と
る、休息をとる ストレスがあるが解消法がない
友人と話すことでストレスが解消される

また、生活習慣病の危険要因になるので喫煙をしな
い、受動喫煙を避ける、飲酒を控えている

2) 今後心掛けたいこと

食生活、運動、ストレスへの対応を続けていくこと
が重要である ストレスの対処方法を考えている
生活リズムを整えたい タバコをやめたい

3) 生活意識・健康価値認識の変化

自分の身体のことを考えていない事に気付いた
生活習慣病を意識して適度な運動をする必要性を感じ
た 健康の自己管理は看護していく上で重要と思う
健康に良い生活を身に付け健康づくりをしたい
自分の健康は自分で考え生活習慣に気をつけたい

レポート課題：「良性肥満と悪性肥満」¹⁷⁾と「慢性疲
労症候群」¹⁸⁾を読んで疾病予防の観点
から感想を述べよ

「肥満」「慢性疲労症候群」ともに学生自身身近な問
題として受け止めており、学生は文献に興味をもって読
んでいた。そして、新しい知識を得るとともに、将来の
保健医療従事者となる自覚と、看護の視点から健康づく

り、疾病予防を考えており、2つの文献は学生のレベル
に合った適切なものであった。

学生の学び

1) 肥満について

今回の文献で、良性肥満と悪性肥満があること、脂
肪はある程度必要であることがわかった 生理学的
に何故内臓脂肪型が生活習慣病の危険要因なのかなど
を学び、肥満に対する考え方が変わった 肥満を作
り出してきたのは現代社会であり、肥満を悪者にして
しまったのも私たち自身かもしれない 肥満に対し
不健康というより見た目が悪いことを気にしており、
現在週3回の運動を行っている 運動不足と食事の
不足から便秘、肌荒れ、風邪をひきやすくなり、やせ
ることより健康が一番だと実感した 肥満になる事
で多くの生活習慣病やその合併症になる危険が高く、
日常生活の過ごし方が大切であると実感した

2) 慢性疲労症候群について

慢性疲労症候群は初めて知る病気で、現代社会にお
いてストレスが及ぼす疾患で誰にでも起こり、ストレ
スを避ける、解消することの重要性を学んだ 「慢
性疲労症候群」が一日も早く原因が解明され、治療法
が見つかったら良いと思う 看護について学んで
いくうちに、この道でやっていけるのかストレスを感じ
始めていたが、気持ちを整理することでストレスを
対処することができた 限られた知識で判断するの
ではなく、患者の苦しみを理解しその原因を医師と一
緒に探求していける看護ができればいいと思った
病名があるから病気であるのではなく、症状からもし
かすると病気がかもしれないと考えるようになった。そ
う考えると将来新しい病気の発見に繋がるかもしれな
いと思った

レポート課題：「事業所見学で学んだこと」

事業所見学で産業保健婦、看護婦の存在を初めて知り、
興味を持って学習しており、看護の視野を広げる学習の
場となり、また、事業所の健康管理の実際を学んでいる。

学生の学び

産業保健婦は、社員、衛生管理者、産業保健婦とい
う三つの立場で職員の健康管理を行っていた どの看
護婦も仕事に誇りを持っていることに感動した 事業
所の作業環境は改善されて、作業環境特有の健康問題は
少なく、生活習慣病やメンタルヘルスケアが重要な問題
となっている 病院とは違う事業所の特殊性を知り、
その中で健康管理を行っていることを学んだ 従業員

数に対する産業保健婦の人数が少ないように感じた
病院と比較して状況は随分異なるが、健康を推進する為
に看護職者の働きかけは、両者とも同じところがあると
感じた 看護は病院だけではなく私たち身近にあるも
のだと実感した 病院も企業と同様に、社員に対する
保健婦や産業医がいて健康管理をする必要があると思う
従業員だけに限らず、その家族の健康管理も行ってい
ることに驚いた 病気になった人のケアではなく、精
神と身体の両面の健康保持増進と、病気を防ぐ事が病院
の看護との主な違いだと感じた 従業員一人一人の健
康について考えることがこれから何十年先の従業員達が
健康に働けるかにつながり、企業の生産性につながると
思った

おわりに

成人保健看護概論は、成人保健看護の全ての科目に共
通する科目で、成人を対象とする看護を原理的に理解す
るためのものであり、成人保健看護の基盤を築くもので
ある。そういう考えのもとに、授業内容を構築した。青
年期にある学生は自分自身のこととして、また成人期に
ある両親のことも考えながら授業を受けていたことがレ
ポートからわかった。さらに、成人期は人生の中で最も
長く、職業生活も約40年と長いことから、授業の一環と
して事業所見学を行った結果、働く人の健康管理や看護
が行われる場を理解する機会となり看護の視野を広げる
新しい学びをしていた。このことは、のちの成人保健看
護実習で対象の理解に大きく役立っていたものと思わ
れる。本授業が成人保健看護の基盤となり、続く講義や
実習などの科目に大きく役立つことを期待する。本稿を
まとめていくうちに、保健看護活動における指導・相談・
援助等いくつかの単元においては授業内容の精選が必要
であることもみえてきた。また、学生が授業を理解する
うえで有効な教材・教具の工夫などの課題もあり、次年
度の改善点としたい。

文 献

- 1) R.J.ハヴィガースト 荘司雅子監訳：人間の発達課
題と教育，玉川大学出版，1995.
- 2) 大島三男 監修：授業設計の基礎，学研，1977.
- 3) 小島操子 他：系統看護学講座 成人看護学総論，
医学書院，1997.
- 4) 氏家幸子 監修：成人看護学 成人看護学原論，廣
川書店，1997.
- 5) 平山朝子，宮地文子編集：公衆衛生看護学大系 4
成人保健指導論 難病保健指導論，日本看護協会出版
会，1999.
- 6) 井上幸子 他編集：看護学体系 第12巻 成人の看
護，日本看護協会出版会，1996.
- 7) 黒田裕子 他：臨床看護学セミナー 1 臨床看護学
概論，メヂカルフレンド社，1997.
- 8) 井上幸子 他編集：看護学体系 第5巻 看護と人
間 [3]，日本看護協会出版会，1995.
- 9) 柳川洋・中村好一編集：公衆衛生マニュアル2000，
南山堂，2000.
- 10) 井上幸子 他編集：看護学体系 第2巻 看護とは
[2]，日本看護協会出版会，1995.
- 11) 秋山房雄 他編集：保健学講座 4 成人地域看護活動
論，メヂカルフレンド社，1999.
- 12) 厚生統計協会：厚生 の 指 標 国民衛生の動向，厚生
統計協会，1999.
- 13) 厚生統計協会：厚生 の 指 標 国民の福祉の動向，厚
生統計協会，1999.
- 14) 沖縄県福祉保健部長 監修：福祉保健行政の概要，
沖縄県福祉保健部，1999.
- 15) 老人保健制度研究会監修：老人保健法関係法令通知
集 第一法規，2000.
- 16) 大野良之，柳川洋編集：生活習慣病予防マニュアル，
南山堂，1999.
- 17) 松沢祐次：良性肥満と悪性肥満，学士会会報，1996 -
，No812，1996.6.
- 18) 倉恒弘彦：慢性疲労症候群はこうして治せ，文芸春
秋，78 (6)，2000.
- 19) 井上幸子 他編集：看護学体系 第1巻 看護とは
[1]，日本看護協会出版会，1995.

Development and Evaluation of Lecture in Introduction to Adult Health and Nursing at Okinawa Prefectural College of Nursing

Yoshikawa Chieko, R.N., LL.B.¹⁾ Ito Sachiko, R.N., B.S.N.¹⁾ Maehara Naomi R.N., M.H.S.¹⁾
Ishikawa Rimiko R.N.,M.H.S.¹⁾ Higa Kaori R.N., M.H.S.¹⁾ Miyajima Atsuko R.N., M.S.¹⁾
Higa Norie R.N., M.H.S.¹⁾ Kinjyo Rika, R.N., M.H.S.¹⁾

Introduction to Adult Health and Nursing is the subject to understand nursing care for adult as well as to form the foundation of Adult Health and Nursing.

Contents of the lecture are: characteristics of adult in life cycle and health; characteristics of nursing in adult; self-care and health promotion; factors affecting health and self-care; advising, consulting, and supporting; health promotion in industries or companies; and field trip to health departments in industries and companies.

Papers were assigned to the students depending on the progress of the class schedule and authors evaluated the students' eagerness to learn, interest and the degree of students' learning.

By evaluating students' learning from assigned papers, authors noticed that there is a variation in learning among students'; however, students engaged in active learning and found new objectives by themselves. Also, amount of reference and students' reading comprehensive skills influenced on quality of writing. As regards the field trip to the health promotion department at industries or companies, all students had interest and the trip is found to be effective for students to understand the characteristics of adult that is the target population in Adult Health and Nursing and nursing functions and roles.

Key words: Adult Health and Nursing, Adult, The content of the Lecture, Report, The undergraduate student

1) Okinawa Prefectural College of Nursing